



*Annual Report 2005*

---





“Addressing the challenge of responsible Internet resource  
distribution in the Asia Pacific Region”

## APNIC

---

Asia Pacific Network Information Centre  
PO Box 2131, Milton  
Brisbane QLD 4064 Australia

Phone: +61 7 3858 3100  
Fax: +61 7 3858 3199  
Email: <info@apnic.net>  
SIP: <helpdesk@voip.apnic.net>

©APNIC Pty Ltd 2006

## 目次

事務局長からのメッセージ	4
APNICについて	5
インターネットガバナンス	7
クライアント優先の実施	10
コミュニティのネットワーク化	12
ポリシーの立案	15
トレーニングと教育	17
APNICのインフラストラクチャの強化	19
メッセージの伝達	21
数字でみる2005年	23
インターネットの発展の支援	26
財務報告	28



## 事務局長からのメッセージ

私がAPNICの事務局長を務めさせていただくようになってから、年次報告書をお届けするのはこれで8回目になりますが、2005年はこれまででも最も動きが大きく、多忙を極めた年の1つだったと言えるでしょう。

インターネットガバナンスの話題があちこちで聞かれるように思います。2003年の第1回目世界情報社会サミット (WSIS) を見逃した方はたくさんいらっしゃるかもしれませんが、2005年を迎える頃にはWSIS IIへの関心が高まり、大きな年間行事となりました。

WSISが終わり、チュニス議案が発表されると、APNIC及び他のRIRはNROを通し、我々の役割が認められてプロセスが評価されたことに喜びを感じました。しかし、インターネット・ガバナンスに関してまだ多くの疑問に答えねばならず、2006年アテネで開催されるインターネット・ガバナンス・フォーラム (IGF) の準備はすでに進行中です。

WSISおよびIGFの結果は、我々の業界にとって非常に重要ですが、平均的なネットワーク運用者にとっては、インターネット・ガバナンスはとても抽象的なコンセプトに思えることでしょう。ですから、交渉が続いている間もビジネスは通常どおりに続ける必要があります。ネットワークはまだ数字を必要としており、APNICではコミュニティへのサービスをずっと最優先しています。

私は2005年の発展をとてうれしく思っています。我々はヘルプデスク、時間外ヘルプデスクでライブチャットサービスを開始し、内部のシステムに多くの重要な改善を実施しました。地域の戦略的な場所で、さらに多くのルートサーバを起動しました。オープンポリシーミーティングへのリモートアクセスを引き続き改善し、その他の外部とのコミュニケーションの質をより向上させました。

また、2005年には2006年の新しいサービスへの布石となる舞台裏での重要な動きがいくつかありました。これらの新しいサービスには、2006年にすでに開始されたVoIPの展開や、リソース認定についてのさらなる作業があります。来年の展開を楽しみにしています。

最後になりましたが、事務局スタッフ、APNICを力強く支援してくださっている会員の皆様、コミュニティの参加者各位にお礼を申し上げます。

敬具

# APNICについて

## APNICの概要

APNICはアジア太平洋地域のRIRとして1993年に設立されました。インターネットのグローバルな運用を支援する、IPアドレスの割り振りおよび登録サービスを提供する5つのRIRの1つです。非営利の開かれた会員組織で、会員および関係者は組織の方向とポリシーを、オープンで過半数の同意に基づいたプロセスで決定できます。

APNICの主な役割は、アジア太平洋地域において、IPアドレスとそれに関連した数値リソースの責任ある管理を行うことです。このサービスは、この地域におけるグローバルなインターネットの安定性と継続したインターネットの発展にとって不可欠です。また、この役割を支援するために、APNICはトレーニングと教育の提供、オープンポリシー開発フォーラムの開催、インターネットインフラストラクチャ開発の助成を行うと同時に、地域コミュニティの関心を世界的ステージで代表しています。

## オープンコミュニティ

APNICはオープンで透明度の高い意思決定プロセスに基づいたコミュニティです。このような構造とフォーラムは以下の特長によって支えられています：

- インターネットのアドレスに関する問題に興味がある人なら誰でも参加できる広範でオープンなコミュニティ。
- 運営に関してのガイダンスと経済的支援を提供するアクティブな会員ベース（2005年末時点で会員数1,157名）。
- 誰でも参加し、知識の共有、ネットワーキング、ポリシー立案、トレーニングに加わることができるオープンポリシーミーティング。
- 会員から選出され、メンバーミーティングのポリシー意思決定において会員を代表する Executive Council (EC)。
- 組織のための日常業務を遂行する事務局およびAPNIC職員。

## APNICのサービス地域

2005年4月のAfriNIC認定によって、APNICのサービス地域が調整されました。コモロ、マダガスカル、モーリシャス、マヨット、リユニオン、セシエルの6地域はAfriNICに移管され、APNICのサービス対象は56の経済地域となりました。





▲ APNIC EC、左からKuo-Wei Wu、Ma Yan、Qian Hualin、Che-Hoo Cheng、前村晶紀、Billy Cheon、Vinh Ngo。

## Executive Council (EC)

APNIC付随定款は、会員から直接選出されるEC構成員は7名で任期は2年としています。ECはメンバーミーティングにおいて会員を代表し、APNIC事務局の業務を監督するのが主な役目です。監督する事務局業務には予算案と財務報告の監査が含まれます。ECは毎月、通常は電話会議で打ち合わせをしますが、APNICオープンポリシーミーティングの期間中には直接会合が持たれます。ECメンバーとしてのサービスは無償ですが、重要な会合への参加についてはAPNICから実費を支給する場合があります。

2005年のEC構成員は次の通りです：

- 前村晶紀（議長：France Telecom Research and Development TokyoおよびJPNIC IP部門の理事兼取締役(2006年で任期終了)）
- Moo-Ho Billy Cheon（書記官：IP Team Assistant Manager, Korea Network Information Center of National Internet Development Agency of Korea (2007年で任期終了)）
- Kuo-Wei Wu（財務担当：CEO of National Information Infrastructure Enterprise Promotion Association (2007年任期終了)）
- Che-Hoo Cheng (Head of IP business Asia Pacific, FLAG Telecom (2007年任期終了))
- Qian Hualin (Deputy Director of Computer Network Information Center, Chinese Academy of Science (2007年任期終了))
- Vinh Ngo, Firewall Security Manager, CSC Australia (2006年任期終了)
- Ma Yan, executive committee member of China Education and Research Network（現職）（2007年任期終了）。

ECの会合の議事録はAPNICのWebサイト (<http://www.apnic.net/ec>) から閲覧可能です。

## APNIC事務局

2005年末の時点で、APNIC事務局のスタッフは47名となりました。ここ数年で会員数が増加しているにも関わらず、内部のシステムと業務を改善することで、スタッフの増員を抑えてきました。国際色が豊かなAPNICのスタッフは、20カ国から集められ地域の19言語を話します。

# インターネットガバナンス

## WSISからIGF

2005年は、インターネットガバナンスについての議論が注目を集めた年として多くの人の記憶に残るでしょう。この動きは、チュニジアで11月に開催された第2回世界情報サミット (WSIS II) として} 頂点に達しました WSISの第一段階はジュネーブで2003年12月に開催され、原則とアクションプランが宣言されました。それ以来、インターネットコミュニティとメディアのWSISに対する関心レベルは高まっています。

APNICでは当初から、単独およびNumber Resource Organization (NRO)のメンバーとして他のRIRと協力しつつ、WSISの進展を細かく追ってきました。WSISへの注力は大きく、インターネットの将来に関わるプロセスの重要性とアドレスシステムへの潜在的影響を反映しています。広範にわたる関係者のフォーラムにおいて、インターネットアドレスシステムについての誤解と俗説は、あっという間に広まって力を持つことがあります。このため、RIRとNROは2005年に、焦点のあったコミュニケーションをタイムリーに行うよう努めました。

WSIS IIの期間中、NROはISOC、ICANN、IETF、およびその他の組織と協力して、サミットの展示である「ICT4all」において「インターネットパビリオン」を設置しました。このパビリオンによって、政府や市民団体、産業界の代表者や国際的なメディアに向けて、現在のシステムの理解を訴えました。

サミットの開催されていない時期は、Working Group on Internet Governance (WGIG) が結成され、インターネットガバナンスの実用的な定義の立案や、適切な公開ポリシーの問題の見極めを行い、政府と国際組織、その他フォーラムの役割と責任に対する共通理解を築くことに力を入れました。WGIGにおけるアドレスコミュニティの代表は、LACNICのエグゼクティブ・ディレクターであるRaúl Echeberriaが務めました。

WGIGは活動の結果を2005年6月に報告し、インターネットガバナンスを「インターネットの発展と使用を形作る共有原則や基準、規則、意思決定の手順、プログラムというそれぞれの役割において、政府や民間部門、市民団体が行う開発および応用」と広範に定義しました。

WSISの最終的な結果は「チュニス議案」として知られ、これはWGIGの実用的定義を採用しながらも、インターネットガバナンスの将来について多くの疑問を残しました。しかし同時に、チュニス議案は「インターネットガバナンスのための既存の取り決めは効率的に機能し、インターネットをより堅牢でダイナミック、かつ地理的に広範囲にわたるメディアとして成功させ、現在の姿に成しえた」と評しています。



▲ NROは他のインターネット団体と協力して、WSIS IIの展示「ICT4all」でインターネットパビリオンを設置しました。



▲ NROを代表してメディアとのインタビューに応じるNRO議長のAxel Pawlik Axel氏は、「チュニス議案によって、RIRのポリシー立案プロセスが認められて、強化された」とNROの喜びを表明しています。

また、本文書は「拡張型協力モデル」と「この地域でグローバルな協力体制を維持しながら、特化した地域のインターネットリソース管理機関を強化し、それぞれの国が自国のインターネットリソースを管理するために国益と権利を保障すること」の必要性を説明しています。

NROは、チュニス議案を「政府がインターネットの日常業務や技術事項に関与しないことをはっきりと決定付けた」として歓迎しました。結果的に、すべての関係者の関与が重要であると認めながらも、インターネットの安定した運用の継続が可能になり、インターネットコミュニティ全体にとって成功をもたらしました。

2005年にNROの議長を務めたAxel Pawlikは、「チュニス議案によって、RIRのポリシー立案プロセスが認められて強化された」と喜びを表明しました。これから数カ月以上にわたって、我々はチュニス議案の結果について意見を交換し、将来の優先順位を決定するために、政府やその他の関係者にアプローチしていきます。

チュニス議案の中で最も詳細な推奨項目は、2006年半ばまでにインターネットガバナンスフォーラム (IGF) を発足させることです。IGFは、インターネットガバナンスに関連する公的なポリシーの問題について話し合い、まだ対応の決まっていない問題についての議論を円滑に進めることが目的です。

詳細はまだ決まっていますが、IGFは政府や市民団体、民間部門、インターネット団体にとって、関係者間の境界を越えるインターネットの問題を解決するうえで生産的な手段となる可能性があります。チュニス議案書では、インターネットガバナンスの既存の構造やプロセスが、IGFによって置き換えられるのではなく、補強されるだろう、と注意深く述べています。また、IGFは諮問機関に過ぎず、推奨事項を強制する力を持たないとも説明しています。

APNICはこれまで通りアジア太平洋地域の各政府との関係強化に力を入れ、IPアドレスポリシーに関連する技術的問題について、活発な意見交換を促していきます。同様に2006年とそれ以降も、NROはIGFの内外において、確立されたアドレス構造と機関の立場を正しく代表するために、議論に耳を傾けてしっかりと対応できるように努めていきます。

NROのWebサイトアドレスは次の通りです: <http://www.nro.net>

## アジア太平洋におけるiGovの研究

また、NRO内での役割とは別に、APNICは各地域の団体とガバナンスの問題で密接に協力しています。例えば、WSIS IIの下準備として、APNICはアジア太平洋地域のインターネットガバナンス優先順位についてのUNDP-APDIP調査と、インターネットガバナンスにおけるオープン地域対話 (ORDIG) プロジェクトのために、スタッフを派遣しました。

UNDP-APDIPプロジェクトによって相当な量のリソース資料が作成されました。これらの資料はAPDIPのアジア太平洋地域インターネットガバナンスポータル (<http://igov.apdip.net>) で閲覧可能です。

## APNICが国連によって正式に認知される

2月初めに、APNICは「特殊諮問ステータス」の申請が国連経済社会理事会 (ECOSOC) により認可されたという通知を受け取りました。つまり、APNICは正式に国連に認められた非政府組織 (NGO) となり、国連の会合や会議に出席する公式な代表者を指名してよいことになります。

APNIC事務局長のポール・ウィルソンは、この最近の動きを重視して次のように語っています。「WSISによって、国連はインターネットガバナンスに関して議論するための中央フォーラムとなりました。おそらく、この役割は今後も続くでしょう。我々が正式に認可を受けたNGOであるということは、APNICの貢献が認められたことの証であり、APNIC会員および関係者の意見が考慮されることがより確実となるでしょう」



▲ APNICスタッフメンバーのKapil ChawlaとSamantha DickinsonはUNDP-APDIPに協力して、インターネットガバナンスの優先順位およびORDIGプロジェクトの調査を支援しました。



▲ 京都で開催されたAPNIC 19会合では、UNDP-APDIPは「The wrong answers to the wrong questions? Policy priorities for the maturing Internet」(間違った質問への間違った回答?成熟するインターネットのポリシー優先順位)というインターネットガバナンスについてのパネル討議を開きました。



▲ 「ユーザーが必要なときにサポートが受けられる機会が多くなるように、我々はできる限りヘルプデスクを営業します」と話すリソースサービスマネージャのSon Tran。



▲ 2005年にスタートしたライブチャットによるヘルプシステムでは、シンプルなインターフェースを使って、APNICのホストマスターから迅速で双方向のサポートを受けられます。

## クライアント優先の実施

### クライアント優先プロジェクト

APNIC事務局は常に、調査や会合、トレーニングイベント、日常的にヘルプデスクが受ける質問などのチャンネルから受け取るフィードバックに関心を持っています。これらのフィードバックを通して浮かび上がってくる一貫したテーマは、多くの人がAPNICのポリシーと手順を複雑だと感じていることです。これに対して、事務局では「クライアント優先」という一連のプロジェクトをスタートさせました。これは、APNICのすべてのサービスを絶え間なく向上させて、手順を簡素化することを目的としています。

クライアント優先プロジェクトの初期段階では、組織内のシステムとワークフローの分析、および最も改善を必要とする分野の特定を行いました。現在進行中の活動には以下のようなものがあります: 既存のすべてのWebフォームの再構築と、よりユーザー重視型のフォームエンジン開発、デジタル認定書のリクエストおよび発行手順の簡素化、Webサイトの操作性の向上とWebコンテンツの見直し、人々がリソースの使用資格の有無と適用される料金を判断できるようにするための簡単なオンラインツールの開発、などです。

現在のところ、この活動のほとんどは舞台裏で行われており、これらの分野の多くにおける努力が目に見えるようになるのは2006年です。しかし、その他関連の努力によって、すでにメンバーがよりよいサービスや簡単なアクセスを利用できるようになっています。

2005年8月には、APNICヘルプデスクはライブチャットシステムを導入することにより、営業時間を延長しました。このWebベースのサービスはホームページからリンクされており、シンプルなインターフェースを使って、APNICのホストマスターから迅速で双方向のサポートを受けられます。ホストマスターはリンクを貼り付けて、お客さまをWebサイトの適切な箇所に案内したり、単純に抱えている問題についてアドバイスを提供することが可能です。また、ユーザーは将来の参考のために、セッションの口述筆記を自動的に電子メールで受け取ることもできます。

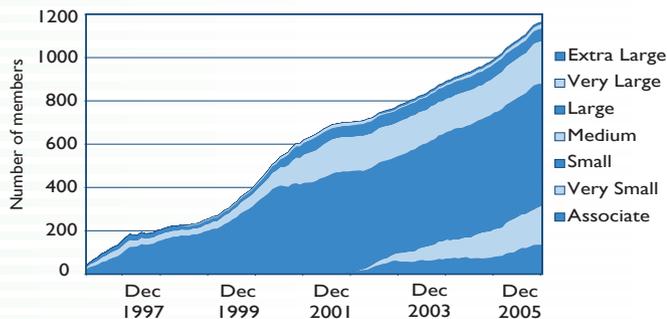
さらに2005年には、事務局は多くの祝日を営業日として、ヘルプデスクにアクセスしやすいようにしました。「祝祭日は地域によって異なります」とリソースサービスマネージャのSon Tranは語っています。「中国やフィジー、インドの人々がオーストラリアの祝祭日を知っているとは思えません。ですから、ユーザーが必要なときにサポートが受けられる機会が多くなるように、我々はできる限りヘルプデスクを運営します」

またSonは「また、我々は2005年に新しい活動を開始しました。これは、様々な地域にいる会員の皆さんに大きな変化をもたらすと期待しています」としています。現在のところ、ほとんどの人は通話料の問題からヘルプデスクへ無制限に電話をかけることはできません。しかし、2005年にAPNIC事務局はVoIP通話のインフラストラクチャを導入しました。「2006年にVoIPサービスの提供を開始します。ヘルプデスクに簡単かつ無料で電話をかけられるようになり、多くの人にとってAPNICへの連絡がよりフレキシブルになります」

## 会員の状況

2005年にはAPNICの会員数は、例年よりも顕著に増加しました。年間の正味新規会員数は179と2000年以降最も大幅な増加で、APNIC史上2番目の成長となりました。増加分は253件の新規会員から74件の退会を差し引いたもので、年末時点での会員総数は1,157となりました。

Membership growth (cumulative, by category)

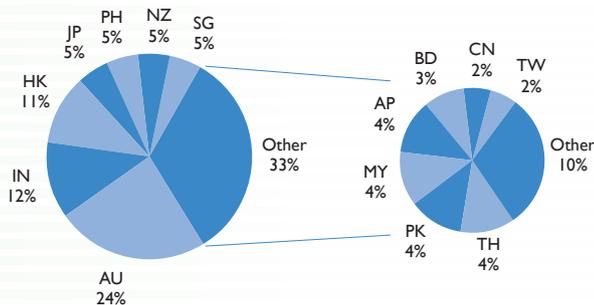


ここ数年と同じように、新規会員の大半はインドとオーストラリアからでしたが、タイやニュージーランド、フィリピン、香港などその他の経済地域からも会員登録があって、根強い成長ぶりを伺わせました。

## 2005年末時点の会員内訳

Membership tier	Number of members
Extra large	8
Very large	20
Large	56
Medium	196
Small	568
Very small	174
Associate	135
<b>total</b>	<b>1157</b>

Geographic distribution of members



## コミュニティのネットワーク化

### APNICオープンポリシーミーティング



▲ 「幅の広いオーディエンスに向けた大規模な会合を準備するのは、とても大変です」と語る藤井美和イベントマネージャ代理。



▲ 京都で開催された Special Interest Group (SIG) セッション。



▲ APNICの会合の交流イベントでは、地域の文化にちなんだパフォーマンスが頻繁に取り入れられます。

APNICオープンポリシーミーティングは、この地域のインターネットコミュニティが正式に集まる機会です。形式的な意味においては、オープンポリシーミーティングは、ポリシーの立案および組織の方向決定プロセスにおける1つの重要な段階です。しかし、もっと砕いた言い方をするなら、「アイデアのつぼ」として、地理や組織上の境界を越えて個人的な人脈を作る場です。

APNICとその他のRIRが存在する理由は、ネットワーク運用者がみな安定したアドレス管理システムに関心を持っているからです。オープンポリシーミーティングは、共通の関心を共通の目的に変える最良の機会を提供します。対話および知識を共有することで進展につながります。こうした共有は、公式のセッションや通路、昼食時、交流イベントなどで行われます。

APNIC事務局にとって、オープンポリシーミーティングは透明性と責務を公的に明らかにする重要な手段です。つまり、活動を報告して、ニーズや関心、アイデアに耳を傾けることに尽きます。APNICスタッフとのコミュニケーションの手段は常に開かれています。貴重な「Human bandwidth」と問題へのフォーカスが、オープンポリシーミーティングを地域の発展に向けた大きな原動力にしています。

重要なのは、これらの機会を地域で共有し、できるだけ多くのコミュニティメンバーが参加できるようにチャンスを広げることです。2005年には京都とベトナムのハノイで会合が開かれ、各会場ならではのユニークなイベントが行われました。ハノイの会合の準備は、藤井美和（現在産休中のVivian Yang代理）がコーディネートしました。

「幅の広いオーディエンスに向けた大規模な会合を準備するのは、とても大変です」と藤井氏は話します。また同氏は、「しかし、毎回私たちのプロセスは改善されています。例えば、APNICのソフトウェア部門が開発した新しい会合登録システムによって、会合の計画やオンサイトの手配方法が大きく変わりました」としています。

この新しい登録システムはAPRICOTでも使用され、APNICとその他のインターネット団体が引き続き高いレベルで協力していることを物語っています。

### より身近な会合を目指して

APNICではなるべく参加しやすいように会合の費用を設定していますが、残念なことに旅費を理由にして参加を辞退する会員は少なくありません。この問題

に対応するために、APNICはいくつかの計画を実行に移しました。フェローシッププログラムが始まってからもう数年になります。これは、開発途上地域からの限られた申請者に対して、スポンサーを募集して会合への参加費用を負担してもらうというプログラムです。APNIC 20ではバングラデシュ、ラオス、ネパール、スリランカから6人が資金援助を受けました。また、APRICOTも共催のAPRICOT/APNIC会合でフェローシッププログラムを運営しています。

会合をより参加しやすいものにするその他の大きな計画として、遠隔地からの参加方法の提供があります。現在では、ストリーミングビデオやライブセッションの口述筆記（WebブラウザまたはJabberクライアントを使用）によって、誰でもAPNICオープンポリシーミーティングの討議の動向を知ることができます。また、討議への参加や、Jabberを使用してコメントや質問をすることも可能です。さらに、セキュリティで保護されたWebサイトであるMyAPNICは、オンライン投票にも対応しており、これは2005年にASOのアドレスカウンスルの選出で初めて正式に使用されました。今後の会合では、APNICは、ライブ音声ストリーミングとポッドキャストによる音声のダウンロードを追加して、リモートによる参加オプションを拡張する予定です。

「我々は、様々なリモート参加オプションをしっかりと確立しています」と語るのはAPNICコミュニケーション・ディレクターのAnne Lordです。「我々が現在抱える課題は、これらの可能性について広範囲に伝えて、直接参加できない会員にオンラインで参加するよう働きかけることです。これらのツールがあれば、どこにいても対話の中にいるような感覚になれます。これまでもメーリングリストを使用すれば誰でも討議に参加できましたが、これからは誰でも場所に関係なく、会合の会場に自分の声を届けられます」とAnneは話しています。

APNICスタッフがプロデュースしたオープンポリシーミーティングのダイジェスト版ビデオは次のアドレスで閲覧可能です：<http://www.apnic.net/multimedia>

### 技術的コミュニティとの協力

地域におけるインターネットの発展のためのその他の重要なフォーラムは、様々な運用者コミュニティ内で開催されます。2005年にAPNICは、SANOGやPacNOG、NZNOGなどの会合への参加の機会を増やしました。これらの会合では、共通の関心を持つコミュニティが互いに歩み寄るため、APNICにとって地域での進展について詳しく知り、広範なオーディエンスに対してトレーニングやアップデート、非公式のコンサルティングを行う良い機会です。地域の中でも地理的に離れた場所では、ISPコミュニティが、本当の実地に基づいた技術的トレーニングを受けたり、知識を共有する機会はありません。運用者コミュニティの会合は、この機会を提供します。



▲ リモート参加ツールによって、物理的に会合に参加できない会員でも「対話の中にいるような感覚」を味わえる、と説明するコミュニケーション・ディレクターのAnne Lord。



▲ ストリーミングビデオやライブのテキスト口述筆記といった技術によって、どこにいてもAPNICの会合の動向をリアルタイムで知ることができます。



▲ APNICの会合についての短いドキュメンタリーがオンラインで閲覧可能です。



▲ 太平洋地域のインターネット運用者コミュニティが一堂に会したPACNOG 1。  
(写真 © Philip Smith 2005)

また、2005年にAPNICは、地域のイベントでトレーニングの機会を増やし、協力を仰ぐ目的で、南アジアのいくつかのISP協会と覚書(MoU)を交わしました。APNICは、PacNOGやAPRICOT、APOPSなどの団体に対して、Webホスティングとメーリングリストによるサポートを引き続いて提供し、これらの団体が効率的なコミュニケーションを行って、コミュニティ内で関係を構築しやすいように支援します。

### RIRおよびNROとの協力体制

RIR (AfriNIC、APNIC、ARIN、LACNIC、RIPE NCC) は、常に密接な協力関係にあります。協力内容には、スタッフの相互訪問やお互いのオープンポリシーミーティングへの参加、知識の共有、エンジニアリングの調整などが含まれます。2005年のRIRコミュニティにおける最も重要な進展の1つに、AfriNICがRIRとして最終的に発足したことがあります。APNICにとっては、このことはコモロ、マダガスカル、モーリシャス、マヨット、リユニオン、セイシェルでのリソースの配布に関する責務を移管することを意味しました。また、APNICはARIN、LACNIC、RIPE NCCと力を合わせて、AfriNICが運用を立ち上げるのを支援するためにUS\$100,000を提供しました。2005年11月にAPNICは、AfriNICのシニアソフトウェアエンジニアであるFrank Nnebeの訪問を受け入れました。同氏の目的は、MyAPNICリソース管理システムといったAPNICの技術的な運用について詳細な知識を習得することでした。

RIR同士の関係の主な特徴は、Number Resource Organization (NRO) を中心に正式化されました。NROは2003年に設立され、割り当てられていないインターネットの数値リソースプールを保護すると同時に、ボトムアップのポリシー立案プロセスを促進して、インターネットコミュニティからRIRシステムへのインプットの中心となる役割を担っています。2005年には、NROの活動内容の大半はインターネットガバナンスのフォーラム、とりわけチュニスで開かれたWSIS IIに参加することでした。また、同じく2005年にNROは定期的な統計レポートを提示し、2005年のエンジニアリング作業（6-to-4 DNS逆引きや共通レジストリプロトコルのプロジェクトなど）の大部分を調整しました。さらに、様々な地域のコミュニティを通してポリシーの立案をグローバルで調整しました。

### グローバルフォーラムでAPNICを代表する

APNICのスタッフは、2005年に世界各地で開かれた35を超えるイベントに、この地域の代表として参加しました。これらのイベントにはRIRおよびNIRの会合や、運用者のフォーラム、グローバルや地域、ローカルの会合、その他の技術フォーラムが含まれます。

# ポリシーの立案

## ポリシーの立案プロセス

APNICのポリシーは、APNICの会員および広範なインターネットコミュニティによって、討議と過半数の同意に基づいたオープンなプロセスを通して立案されます。ポリシーの提案は、APNICの会合の少なくとも1ヵ月前にはSIGのメーリングリストに掲載されます。APNICの会合で討議と是認が行われた後は、提案はコメント期間としてメーリングリストに8週間にわたり再度掲載されます。コメント期間が終わると、コミュニティから過半数の同意を得たポリシー提案をAPNIC ECが是認します。この長期にわたるタイムラインは、APNICの会合に参加する人々だけでなく、インターネットコミュニティのすべてのメンバーが積極的にポリシーの立案に参加できるように考えられています。

2005年には、Save Voceaが、前職の太平洋地域研究および連絡オフィサーからAPNICのポリシー立案マネージャとなりました。彼は、新しい役職での最大の課題の1つは、アジア太平洋地域のコミュニティが、積極的にポリシー立案プロセスのすべての段階に参加するよう奨励することだとしています。

「この課題に取り組む1つの方法は、ポリシーの討議を追跡する方法を合理化することであり、プロセスがどのように機能するかという認識を高めるために引き続き尽力する」と同氏は述べています。

さらにSaveは、「APNICの会合への参加にリモート参加ツールを使う人が増えたのが、2005年の特徴です。これによって、実際に参加できない人々がライブで会合の後述筆記を読んだり、ビデオストリーミングをライブで見ることができるようになりました」と説明しています。「参加者が対話に参加したければ、ライブチャットを使って会合の会場にいる事務局のスタッフに連絡すればいいわけです。我々は2006年には、これらのツールを改善してより簡単に使えるようにするつもりです」と同氏は述べています。

## 2005年のポリシー変更と関連のアップデート

次の提案は、2005年に過半数の同意を得てExecutive Council (EC) によって是認されました。

### [prop-005-v005] IPv6 ブロックの地域インターネットレジストリーへの割り振りのためのIANAポリシー(グローバルポリシー)

これは、IANA からRIRへのIPv6割り振り条件および規模を指定するという提案でした。グローバルポリシーとして、導入の前にすべての5 RIRが最終版を承認する必要があります。



▲ 太平洋地域研究および連絡オフィサーからAPNICのポリシー立案マネージャとなったSave Vocea。

## 2005年のAPNIC Special Interest Group (SIG)

### ポリシーSIG

---

Kenny Huang (議長)  
Eugene Li, Toshiyuki Hosaka  
(共同議長)

### ルーティングSIG

---

Philip Smith (議長)  
Randy Bush (共同議長)

### IX SIG

---

Philip Smith (議長)  
Che-Hoo Cheng (共同議長)

### データベースSIG

---

Xing Li (議長)  
Hakikur Rahman (共同議長)

### IPv6技術SIG

---

Kazu Yamamoto (議長)  
Tomohiro Fujisaki, Tao Chen  
(共同議長)

### NIR SIG

---

Izumi Okutani (議長)  
David Chen (共同議長)

### DNS運用SIG

---

Joe Abley (議長)

## [prop-026-v001] APNICによるアドレス割り当てに関する統計の公開

これはAPNICがアドレス割り当ての統計を公開するという提案でした。

## [prop-027-v001] 将来のIPv6展開のための大規模IPv4アドレススペーストライアル使用法プログラムの第2段階

この提案は、既存の大規模なIPv4試験使用プログラムを特定の追加条件の下で延長可能にするというものでした。このプログラムは、日本のIPv6推進カウンスルがイニシアチブをとっており、従来割り振られてきたIPv4アドレススペースの大部分を使用して、IPv6の展開をするよう考案されました。

## [prop-030-v002] APNICにおけるip6.intでのDNS逆引きサービスの段階的廃止

これは、ip6.intでのDNS逆引きサービスの完全廃止を進めるための提案でした。また、この提案を受け入れたことで、事務局はip6.intのルックアップの内訳と委譲されていないドメインの数に関する統計データを集め、APNIC 21のDNS運用SIGで報告することとなりました。

## [prop-031-v002] APNIC IPv6の割り当ておよび使用条件のポリシー改正提案

ポリシー立案プロセスにおいて、この提案は2つの部分に分けられていました。パート1は、今後のIPv6割り振りの評価をHDレシオ0.94に基づいて行うことを提案していました。これは過半数の同意を得てECにより是認されました。パート2の提案は、/64と/48に加えて、/56エンドサイト割り振りポイントを追加し、これをSOHOエンドサイトのデフォルト割り振りサイズとするものでした。これには過半数の同意が得られませんでした。

個々のポリシーの進展は <http://www.apnic.net/docs/policy/proposals>  
で閲覧可能です。

# トレーニングと教育

## 新しいコンテンツと新しい学習方法の融合

APNICトレーニング部門は、より能率的なアプローチをもって地域へのトレーニングを提供するという戦略的なゴールを掲げて2005年を迎えました。実務レベルでは、より正式な料金体系を作ってスポンサーシップの利点を絞り込み、コミュニケーションを改善して、さらに多くのコース材料を開発しました。

新しく追加された材料には、過去数年のフィードバックに正面から応えて開発された3日間の技術コース「Routing Essentials Workshop」のほか、spamとセキュリティについての半日の個別指導2コースがありました。

トレーニングサービスの効率的な発展、拡大を実現するには、コミュニティのニーズを正しく理解しなければなりません。このために、APNICの講師は2005年にフィードバックや提案を積極的に集めました。

「我々は、トレーニングのフィードバックと評価フォームを見直して作り直すことに専念しました」と語るのはシニアトレーニングスペシャリストのChampika Wijayatungaです。Champikaは「こうすることで、より多くの情報を収集でき、メンバーのニーズをより細かく分析できました。結果として、特定の参加者層や我々の既存のコースの妥当性と効果について質の高い情報と、トレーニングの改善につながる提案が得られました」としています。

トレーニングプログラムに対するAPNICの戦略的ゴールの1つは、しっかりしたeラーニング環境を構築して、講師主導型のトレーニングが現実的でない遠隔地のメンバーを中心とする会員のニーズによりよく対応することです。このゴールを実現するため、eラーニングの開発/トレーニング幹部として、Sall'ee Rymanが2005年にAPNICに加わりました。Sall'eeは指導とメディア製作の経験が豊富で、eラーニングプロジェクトでの優秀な指導が評価され、賞を受けたこともあります。

将来を見据えて、トレーニング部門の2006年の活動の焦点は、新しいRouting Essentials Workshopを引き続き開催して、IPv6サービスワークショップをスタートさせ、初めてのeラーニングパッケージを開発することになるでしょう。



▲ Sall'ee Rymanがeラーニング開発/トレーニングオフィサーとしてAPNICに加わりました。Sall'eeは2006年にスタートするeラーニングプログラムを開発中です。



▲ 実地ワークショップで受講者をサポートするシニアトレーニングスペシャリストのChampika Wijayatunga。



▲ ハノイで開催されたAPNIC 20でトレーニングセッションを行うトレーニングオフィサーのAmante Alvaran。

## 2005年のトレーニング活動内容

---

In 2005, APNIC delivered 34 training sessions in 22 different locations:

Bangkok, TH

Delhi, IN

Dhaka, BD

Guangzhou, CN

Hamilton, NZ

Hangzhou, CN

Hanoi, VN

Hong Kong, HK

Jakarta, ID

Karachi, PK

Kuala Lumpur, MY

Kyoto, JP

Langzhou, CN

Makati, PH

Nadi, FJ

Port Moresby, PG

Singapore, SG

Sydney, AU

Taipei, TW

Thimphu, BT

Ulaan Baatar, MN

Vientiane, LA

トレーニングのスケジュールとコース材料は  
<http://www.apnic.net/training> で入手できます。

## NIRスタッフトレーニング

---

長年にわたるトレーニングサービス拡張の一環で、APNICはNIRのスタッフを短期間受け入れて、内部のトレーニングセッションへの参加や、運用上の問題についての経験を共有してもらうほか、APNICのホストマスターとともに作業できるようにしています。2005年にはCNNICからDong YanとShen ZhiがAPNICを訪れました。

今後のスタッフトレーニングへの参加希望者は、[helpdesk@apnic.net](mailto:helpdesk@apnic.net)まで問い合わせてください。

# APNICのインフラストラクチャの強化

## インフラストラクチャの強化とサービスの統合

APNICの技術インフラ開発は休むことのないプロセスです。これは、サービスの絶え間ない改善と、APNICの主要なゴールであるレジストリーの整合性の確保に必要かつ不可欠です。

2005年の主要なプロジェクトの1つに、APNICの重要なサービスを遠隔地の共同施設に移管する作業がありました。この結果、APNICのサービスは利用しやすくなり、信頼性も高まりました。

APNICの戦略的な方向性について、技術サービスマネージャのSanjayaは「APNICの関係者によりよいサービスを届けるためのテクノロジーのさらなる使用」と説明しています。

このよい例として、2005年に導入された新しいVoIPインフラが挙げられます。VoIPシステムは、既存のPABX電話システムを置き換えるために、内部的に導入されました。新しいシステムによって、出張中のスタッフメンバーが無料でオフィスに電話をかけられるなど、すでにコスト面で効果が上がっています。しかし、こうした利点はまもなくオフィスだけに留まらず、多方面に拡散していくでしょう。

Sanjayaは「VoIPはメンバーサービスになります」と話します。「2006年にはヘルプデスクと統合する計画でこのシステムを展開しています。我々が開発しているインフラによって、メンバーはVoIPアカウントをセットアップできるようになります。つまり、まもなく世界中どこにいても無料でヘルプデスクに電話をかけられるようになるということです」

## MyAPNICの開発を継続

技術チームが行う作業のほとんどは、事務局以外では直接目にすることはありません。APNICのレジストリーとメンバー管理システムをすべて統合するという主要タスクは、2005年も引き続き遂行されました。このプロジェクトでは、システムの自動化を進めることで、データの整合性と信頼性を確保し、一般サービスをより効率的にすることが目的です。ほとんどの作業はバックエンドのシステムで行われますが、一般の目に触れるものもあります。安全なWebサイトであるMyAPNICはその最も顕著な例でしょう。



▲ 2005年にチームが開発したVoIPインフラが2006年の重要なメンバーサービスになる、と説明する技術サービスマネージャのSanjaya。



▲ MyAPNICの新バージョンは、低帯域環境で優れたパフォーマンスを実現するように最適化され、2005年に開発されました。運用は2006年の予定です。

2005年にMyAPNICは、APNICで初のオンライン投票（欠員となっていたASOアドレスカウンシルの役職）に使われました。2006年初めには、任期が満了する3人のECを補充する際にオンライン投票を使用します。

「オンライン投票は会合に参加できないメンバーが一票を投じるための非常に重要な手段です」とSanjayaは話します。「代理投票という手段はこれまでもありましたが、オンライン投票はずっと管理が簡単で、代理投票よりもはるかに多くのメンバーに利用してもらえらるでしょう」

その他のMyAPNICの開発は年間を通して続けられました。なかでも、低帯域環境でのパフォーマンスを上げるために最適化された、アプリケーションの新バージョンの開発には、長い時間がかかりました。新しいバージョンは2006年にリリースされる予定です。

### リソースの認定

MyAPNICの中核となるのは、デジタル認証技術です。APNICはMyAPNICを支援し、数年にわたって認証局を運営してきました。2005年に技術部門では、X.509認定書の重要な使用拡張に着手しました。RFC 3779から提供されたモデルに従って、APNICはインターネットの数値リソースを認定する試験運用を開始しました。これは、この地域および全世界でのリソース保有のセキュリティについて重要な意義を持っています。試験運用が問題なく進行すれば、リソース認定は包括的サービスとして2006年に利用可能になる見込みです。

### spam対策の成功

spamは、かなり前からインターネットの悪い面の1つとしてとらえられてきました。2005年に技術部門ではグレイリストシステムを導入しました。これは、一時的なSMTPエラーメッセージを使用して、受信メールを初回の配信時にブロックします。サーバは通常、短い遅延時間をおいて再試行するように設定されていますが、spamサーバはその性質上、ブロックされたメッセージを永続的な失敗として処理します。

シニアシステム管理者のTerry Mandersonは「この結果、APNIC事務局ではspamの件数が直ちに90パーセント下落し、そのまま落ち着いたことを確認しました。これは、APNICのサービス効率を考えるうえで、はっきりとした利点です」としています。

グレイリスト技術についての情報は、ICONSのWebサイト (<http://icons.apnic.net>) のSpamの項にあるリンクを参照してください。

# メッセージの伝達

## コミュニケーションに専念

APNICの戦略的プランで明らかになった重要な問題の1つは、あらゆる面でのコミュニケーションを継続して改善する必要性があることです。2004年末に、事務局の再編によってAnne Lordがコミュニケーション・ディレクターに就任しました。この職務は、外部とのコミュニケーションに加えて、事務局内のいくつかの部門間のコミュニケーションの調整を担当します。

2005年には、アウトリーチコーディネーターのNurani Nimpunoと、南アジア連絡担当のKapil Chawlaに加えて、マーケティング・コミュニケーションオフィサーにHolly Qiが任命されたことで、APNICの効率的なコミュニケーション能力は、さらに強化されました。この3人のチームは2005年の間、現在の環境における最も重要なメッセージを見極めて、これらのメッセージをコミュニティに伝える最も効果的な手段を見つけることに力を注いできました。

「現在のインターネットガバナンスに関するグローバルな討議を踏まえると、今ほど我々のコミュニティとの明確なコミュニケーションが重要なときはありません」とAnne Lordは説明します。2005年はiGovの問題がこれまで以上に浮き彫りになり、多くの重要な懸案事項があります。例えば、UNDP-APDIPiGovプロジェクトに支援を提供することで、アドレスコミュニティが正当に代表権を得て、理解されるようにすることができました。

ISP協会は各地域の運用者と密接な関係を保っています。様々な協会と覚書(MoU)を交わすことにより、APNICは、現在までAPNICコミュニティにほとんど関与してこなかった各地域のISPのニーズに耳を傾け、対応する能力をより改善しました。

「2005年に我々はSANOGやPacNOG、NZNOGなどの準地域的なフォーラムになるべく参加するよう努力を惜しみませんでした。また、地域のPITAやNSRC、ISPグループといった他の団体と密接な活動を行いました」とAnneは述べています。「こうすることで、これらの団体を広範なインターネットコミュニティへとまとめる力添えができます。ただ、同じくらい重要なのは、我々の地域が抱えるニーズや関心、懸念を理解し、それらをグローバルフォーラムへとフィードバックすることです」

## オープンさに必要な利用のしやすさ

コミュニケーションフォーラムは、ただオープンであるだけでは不十分です。フォーラムが成功するには、参加者を集めると同時に、参加のためのシンプルなオプションを提供する必要があります。APNICの会合にリモートアクセスによって参加するためのツールは、いくつかの会合で利用できますが、ツールの利用者数は少ないままです。

「リモート参加ツールを認知してもらえるように宣伝する必要があることは分かっていました。同時に、人々がこれらのツールをどう使うのか、使用の障害は何かという点も理解しなくてはなりません」とAnneは話します。

というわけで、2005年に事務局は、会合に参加できないけれど関与はしたいという人々のためのオプションの認知度を知るために調査を行いました。調査では、これまでに利用可能なツールを使用したときの経験についても回答してもらいました。このフィードバックの結果は、低帯域環境用に音声のみのストリーミングを提供したり、様々なサービスのインターフェースを簡素化するなど、2006年を通してサービスの改善に反映されます。



▲ APNICスタッフはマルチメディアガイドを作成しました。これらはオンラインでご利用になれます。

APNICのコミュニケーションチャンネルをさらに利用しやすくするもう1つの方法は、より興味深いメディアを使用することです。2005年に事務局はスタッフメンバーのスキルを活かし、WSIS IIでNROが使用するために作成された2つの重要なプレゼンテーションを含むFlashアニメーションや、より広範な概況報告書およびパンフレット（一部は地域の様々な言語に翻訳済み）、APNICオープンポリシーミーティングのドキュメンタリービデオなど、マルチメディアを使った一連の新しい情報を提供しました。

APNICのマルチメディアライブラリは <http://www.apnic.net/multimedia> でご利用可能です。

また、APNICの季刊ニュースレター、Apsterには質の高い技術論文やコミュニティのニュースが引き続き掲載されています。2005年にApsterではインターネットガバナンスの進展を掘り下げて特集しましたが、他にも大規模なIPv4ネットワークアドレス体系や、2バイトASNの消費、4バイトASNの提案、ルートサーバのニュース、リソース認定書などについても記事を掲載しました。

Apster は <http://www.apnic.net/apster> で閲覧可能です。



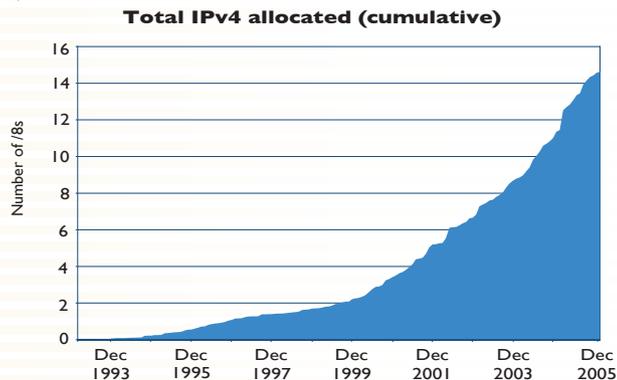
### ICONS

インターネット上でネットワークング情報に不足することはまずありませんが、問題は有益な情報を見つけて不要な情報をよけることです。2005年にAPNICはWebサイト、ICONSをスタートさせました。ICONSとは、Internet Community of Online Networking Specialists（オンラインネットワークングスペシャリストのためのインターネットコミュニティ）の略です。事務局は手初めとしていくつかの文書やリンクをサイトに載せましたが、コミュニティが自ら後を継いでくれることを意図しています。コミュニティのメンバーなら誰でもサイトにログインして、広範な関連トピックについてのコンテンツやリンク、ニュースを追加したり、討議フォーラムに参加できます。ネットワークングおよびアドレス処理分野のエキスパートは、ぜひ自身の経験を幅広いコミュニティのメンバーと共有してください。

ICONS のアドレスは <http://icons.apnic.net> です。

# 数字でみる2005年

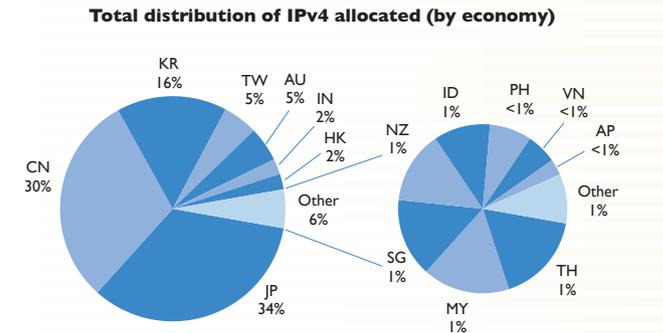
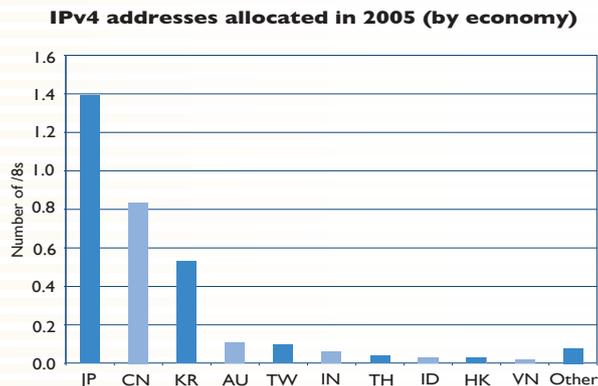
## IPv4アドレス空間



IPv4アドレス空間への需要は2005年に再び高まり、APNICは3.21 /8と同等分を割り振りました (2004年は2.58、2004年は1.98、2002年は1.25)。

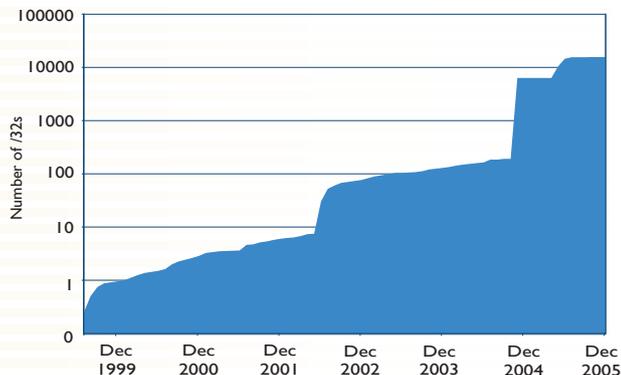
地域におけるIPv4アドレス空間の相対的な配分は、ここ数年かなり安定傾向にあります。最も多くのアドレスを保持しているのは、日本、中国、韓国です。

また、事務局では未使用のIPv4アドレス空間を復活するプロジェクトに取り組んでいます。このプロセスは、明らかに使われていない範囲を特定し、登録者に連絡をとって詳細を確認したうえで、アドレスを返還を依頼するため、非常に時間がかかります。このプロジェクトは継続しますが、現時点で638 /24sが同意の上でAPNICに返還されました。



IPv6アドレス空間

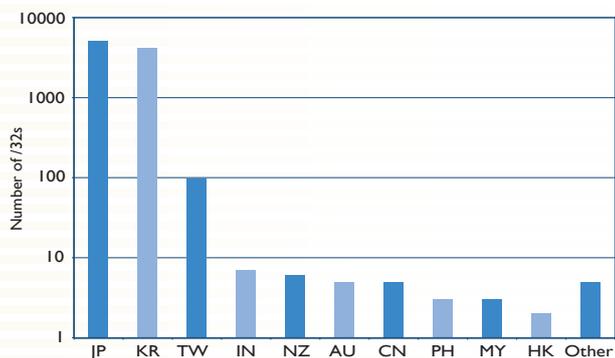
Total IPv6 allocated (cumulative)



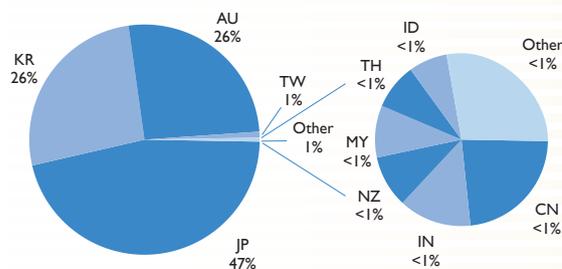
これまでAPNICは、割り振った数に基づいてIPv6の報告を行ってきました。この報告書からは、実際に割り振ったアドレス空間の量を報告します。2002年にIPv6の最小割り振りが大きく変更されたため、それ以前のIPv6アドレス空間の需要を解釈する際には注意してください。

2005にAPNICは48のIPv6割り振りを行い、合計は9,376 /32sとなりました。比較すると、昨年はAPNICは56の割り振りを行いました。これらは6,210 /32sに過ぎません。明らかに日本、韓国、オーストラリアがこの地域で最も多くのIPv6アドレスを保有しています。

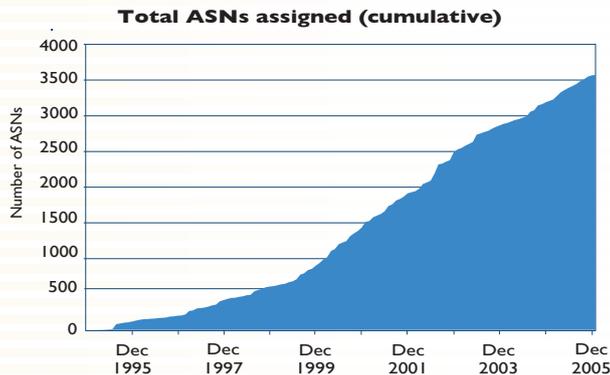
IPv6 addresses allocated in 2005 (by economy)



Total distribution of IPv6 allocated (by economy)

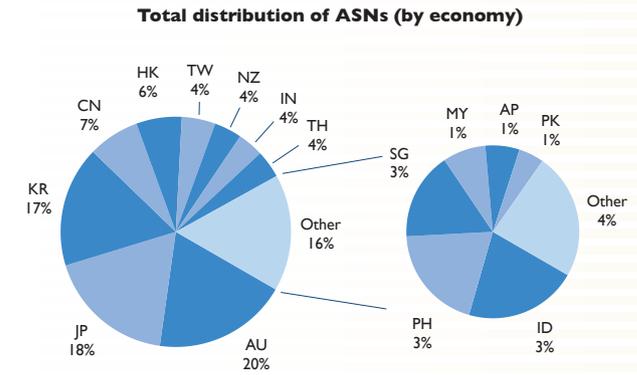
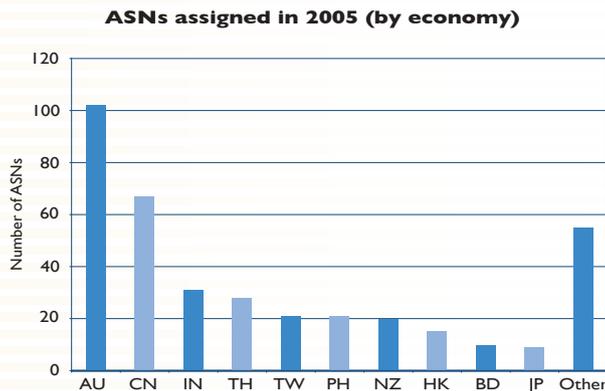


AS番号



ここ数年でAS番号への需要は落ち込みましたが、2005年はわずかながらまた需要が増えました。APNICは2004年の329を上回る381のASNを2005年に割り当てました。この地域で最も多くのASNを保有する国はオーストラリア、日本、韓国、中国でした。

2005年にAPNICのインターネット研究専門サイエンティストGeoff HustonがASNの消費について調べたところ、世界の2バイトAS番号のプールが、2010年までに枯渇する可能性があるという結論に達しました。幸いなことに、IETFのRFCプロセスを通して、4バイトのASNに移行するという解決策が提示されています。この移行は支障をきたすようなものにはならないと思われませんが、時間を要します。このトピックに関する記事はApsterの15号と16号に掲載されています。4バイトASNについての技術およびポリシーの問題については、2006年のAPNICフォーラムで大きく取り上げます。



インターネット番号リソースの状況の世界的な統計は、NROのサイト  
(<http://www.nro.org/statistics>) から入手できます。

# インターネットの発展の支援



▲ インドで8月に正式に設置された新しい3台のルートサーバによって、南アジアにおけるインターネットの発展に重要な局面が開けました。

## 地域のルートサーバ

APNICの責務は、登録業務に留まらず、地域におけるインターネットの発展を促進する義務も含まれます。ここ数年でAPNICの最も重要な活動の1つは、地域においてルートサーバのミラーの展開を促進することです。実際のルートサーバの数は13に限られていますが、エニキャスト技術のおかげで、使用できるミラーコピーの数には制限がありません。

ルートサーバのミラーをローカルエリアで使用できるようにすると、DNSサービスのスピードが即座に上がり、新しく設置するたびにインターネットの安定性と回復力が増します。2004以来、APNICはルートサーバの運用者F (ISC)、I (Autonomica)、K (RIPE NCC) と協力して、地域の隅々にミラーを展開しています。

2005年にAPNICは以下の8つのミラーの展開を支援しました:

<b>F-root</b>	Chennai, IN (August)	Karachi, PK and Dhaka, BD (December)
<b>I-root</b>	Jakarta, ID (March)	Mumbai, IN (August)
<b>K-root</b>	Tokyo, JP (April)	Brisbane, AU (June)      Delhi, IN (August)



▲ ルートサーバプロジェクトの最新動向については<http://www.apnic.net/services/rootserver>をご覧ください。

開発とは、ただインフラストラクチャを構築するだけではありません。関係を育み、作業を完了できる人々をまとめることでもあります。8月にインドに新設されたミラー3台の立ち上げで、APNIC事務局長のPaul Wilsonは「これら3台のルートサーバの設置は、インターネットコミュニティの調整の良い例です。今回の導入では、南アジアの発展途上国におけるDNSの安定性とインターネットのレスポンスタイムを改善するために、民間セクターと非営利団体、政府団体が力をあわせました」と話しました。

現在アジア太平洋地域には32台のルートサーバがあり、そのうち18台はAPNICがサポートしたものです。この地域におけるルートサーバの展開はおそらくこれで十分なため、このプロジェクトには大きな支出はもう必要ありません。しかし、APNICでは何らかの将来的なニーズがあれば対応する予定です。

## 不完全DNSのクリーンアップ

---

DNS逆引きサービスは、分かっているIPアドレスからそれに関連するホスト名を割り出すときに使用します。残念ながら、DNS逆引きシステムは多くの不完全な逆引き権限委譲を含んでおり、登録されたDNSネームサーバの一部またはすべてが追跡不可能であったり、誤って構成されています。これは、サービス結合の遅延や、DNS処理エラーによるサービスの拒否、キャッシングDNSネームサーバとルートからのリストされた権限間のトラフィック増加といった多くの問題を引き起こします。

こうした理由で、事務局はAPNIC Whoisデータベースから不完全なDNS逆引き権限委譲を消去するプロジェクトを進めています。このプロセスは、テストを実行してすべての不完全逆引き委譲を識別し、管理する団体に連絡して、45日の通知期限を経た後に、常に不完全となっている委譲を削除するというものです。

このプロジェクトによって、初回のクリーンアップで1,000を超える不完全逆引き委譲が削除されましたが、問題の性質からいってもこの作業は継続していきます。

不完全DNS逆引き委譲に対するAPNICの対応については、<http://www.apnic.net/services/rev-del/lame-del> をご覧ください。

## 革新的な研究および開発の支援

---

APNICは引き続きPan Asia ICT R&D助成プログラムと密接に関わっていきます。このプログラムは、発展途上国の研究者とコミュニティが現実的な問題に対処できるよう支援します。Pan Asia ICT R&D助成プログラムは現在、この地域のICT研究開発における最も重要な資金提供元の1つです。

「2005年に我々は17のプロジェクトに資金を提供しました。各プロジェクトに最大でUS\$30,000を供与しました」とAPNIC文書マネージャのGerard Rossは述べています。Gerardは申請書を評価して選ぶ委員会のメンバーでもあります。

Gerardは「助成プログラムについての話が広がっていくのを見るのはうれしいことです」と話します。「健康に関するものから既存のものに代わるネットワークング技術、収穫監視プロジェクト、災害回避システム、種々のオープンソースソフトウェア開発まで、とても広範なプロジェクトが送られてきます」。

APNICは助成プログラムの申請者の中でも、インターネットのインフラストラクチャ、発展途上国への技術および管理ポリシーの影響、アドレスやルーティングの問題研究に関わる人々を支援したいと考えています。

助成プログラムの詳細については [http://web.idrc.ca/en/ev-9609-201-1-DO\\_TOPIC.html](http://web.idrc.ca/en/ev-9609-201-1-DO_TOPIC.html) をご覧ください。

資金提供を受けたいいくつかのプロジェクトのケーススタディを含む、助成プログラムのパンフレットは、  
<http://www.apdip.net/projects/ictrnd/Review2.pdf> から入手できます。



▲ 「2005年のAPNICの財務状況は会員数の成長が回復したことに助けられました」と語る財務および会計マネージャのIrene Chan。

## 財務報告

APNICの会計、請求および会員の管理は、APNICの財務および会計マネージャであるIrene Chanと彼女のチームの責務です。

「APNICの予算は年間予算です。しかし、我々は常に現状を予算と突き合わせて、月次の財務報告書を作成しています。この報告書は、Executive Council (EC)の会合でも毎回提示されます」とIreneは話します。

APNICの財務における最も重要な2つの変動要素は、会員数の成長率とUSドルの価値です。APNICの収益の大半はUSドルで入ってきますが、支出のほとんどはオーストラリア・ドルです。つまり、為替レートの変動が財務報告書に記載されます。もちろんAPNICの資本準備金は、長期的な財務上のポジションを短期的な不安定さから守るよう構成されています。

「2005年は会員数の成長が元の良い状態に戻りました」とIreneは説明します。「USドルのパフォーマンスも予想をわずかに上回りました。ECは、常に1年分の運営費に相当する準備金を維持するよう事務局に指示していますが、我々はずっとこの目標を達成してきました」

この財務報告書は2005年のAPNICの財務状況を集計したものです。PricewaterhouseCoopersの監査を受けたオーストラリア・ドルによる財務報告書を基にして、USドルで提示してあります。

**Statement of financial position**

	Year end 2005	Year end 2004	% change
	(US\$)	(US\$)	from 2004
Exchange rate (*)	0.7363	0.7835	-6%
<b>Current assets</b>			
Cash	3,809,068	3,691,561	3%
Term deposit investment	2,429,790	2,585,550	-6%
Receivables	890,592	510,816	74%
Advance payment	86,413	128,152	-33%
Other	3,879	13,520	-71%
Total current assets	7,219,742	6,929,599	4%
<b>Non-current assets</b>			
Other financial assets	751,599	663,273	13%
Property, plant, and equipment	971,547	1,074,177	-10%
Long term deposit investment	1,472,600	783,500	88%
Total non-current assets	3,195,746	2,520,950	27%
<b>Total assets</b>	<b>10,415,488</b>	<b>9,450,549</b>	<b>10%</b>
<b>Liabilities</b>			
Accrued expenses	794,033	517,170	54%
Provisions	391,183	300,228	30%
Unearned revenue	2,706,572	2,061,047	31%
Total liabilities	3,891,788	2,878,445	35%
<b>Equity</b>			
Share capital	0.74	0.78	-6%
Reserves	116,459	0	0%
Retained earnings	6,407,240	6,572,103	-3%
Total equity	6,523,700	6,572,104	-1%
<b>Total liabilities &amp; equity</b>	<b>10,415,488</b>	<b>9,450,549</b>	<b>10%</b>

**Notes:**

The statement of financial position, activities, and cashflows represents APNIC Pty Ltd translated into US\$.

For a better understanding of APNIC Pty Ltd's financial position and performance, as represented by the results of its operations and its cashflows for the financial year ended 31 December 2005, the statement of financial position, activities, and cashflows should be read in conjunction with the annual statutory financial report and the audit report contained therein.

The amounts in this APNIC financial report are expressed in US\$. The exchange rate used to convert AU\$ amounts to US\$ in this report (0.7363), is based on the notes spot rate as at 31 December 2005, as provided by the Australian Taxation Office.

Notes:

The exchange rate used to convert AU\$ amounts to US\$ in this report (0.7665), is based on the average monthly rate for year 2005 as provided by the Australian Taxation Office.

**Statement of activities**

	2005	2004	% change
	in US\$	in US\$	from 2004
Exchange rate (*)	0.7665	0.7380	4%
<b>Revenue</b>			
Interest income	327,818	282,928	16%
IP resource application fees	532,901	351,188	52%
Membership fees	3,733,776	3,510,392	6%
Non-member fees	73,801	27,686	167%
Per allocation fees	636,720	635,180	0%
Reactivation fees	957	2,876	-67%
Sundry income	135,570	78,007	74%
Sub-total	5,441,543	4,888,257	11%
Exchange rate gain/(loss)	382,193	83,843	356%
<b>Total revenue</b>	<b>5,823,736</b>	<b>4,972,100</b>	<b>17%</b>
<b>Expenditure</b>			
Communication expenses	126,136	105,933	19%
Depreciation expense	358,409	300,454	19%
Donation, contribution, and sponsorship	30,674	65,562	-53%
ICANN contract fees	228,805	172,016	33%
Meeting and training expenses	86,766	68,576	27%
Membership fees	110,826	93,569	18%
Other operating expenses	898,916	796,144	13%
Professional fees	388,285	413,019	-6%
Rent	246,814	219,749	12%
Salaries	2,384,347	2,108,829	13%
Travel expenses	604,081	523,161	15%
<b>Total expenditure</b>	<b>5,464,059</b>	<b>4,867,012</b>	<b>12%</b>
<b>Operating surplus/(loss) before income tax expense</b>	<b>359,677</b>	<b>105,088</b>	<b>242%</b>
<b>Income tax expense</b>	<b>45,383</b>	<b>84,711</b>	<b>-46%</b>
<b>Operating surplus/(loss) after income tax expense</b>	<b>314,294</b>	<b>20,377</b>	<b>1442%</b>

**Statement of cashflows**

<b>For the year ended 31 December 2005</b>	<b>2005</b>	<b>2004</b>
	(US\$)	(US\$)
Exchange rate (*)	0.7363	0.7835
<b>Cash flows from operating activities:</b>		
Receipts from members and customers	5,306,155	4,615,524
Payments to suppliers and employees	(4,241,491)	(4,465,702)
	1,064,664	149,822
Interest received	329,988	275,239
Income tax (paid) / received	(2,597)	(26,138)
Net cash inflow from operating activities	1,392,055	398,923
<b>Cash flows from investing activities:</b>		
Payments for property, plant, and equipment	(309,269)	(343,638)
Payments for investments	(841,398)	(235,050)
Proceeds from sale of property, plant, and equipment	1,660	0
Proceeds from sale of available-for-sale financial assets	96,847	0
Net cash outflow from investing activities	(1,052,160)	(578,688)
<b>Net increase/ (decrease) in cash held:</b>	<b>339,895</b>	<b>(179,765)</b>
<b>Cash at the beginning of the financial year</b>	<b>3,691,561</b>	<b>3,716,177</b>
<b>Effects of exchange rate changes on cash</b>	<b>(222,388)</b>	<b>155,149</b>
<b>Cash reserve at the end of the financial year</b>	<b>3,809,068</b>	<b>3,691,561</b>

APNICは2005年の運営、会合、トレーニングイベントを後援して下さった  
以下の団体の皆さまに厚く御礼を申し上げます:

**Meeting sponsors**

Cisco Systems Vietnam

CNNIC

JPNIC

KRNIC of NIDA

Nominum

TWNIC

VNNIC

VNPT

Internet Service Providers Association of Pakistan (ISPAK)

**Operational sponsors**

Cisco Systems

Hong Kong Internet Exchange (HKIX)

Reach

Telstra

The WIDE Project

**Training sponsors**

Republic Polytechnic, Singapore

MYNIC, Malaysia

Juniper Networks (Hong Kong)

China Mobile Communications Corporation

China Telecom

Telekom Malaysia

Enterprise of Telecommunications Lao (ETL)

Unicom, Laos

Internet Education and Research Laboratory (intERLab),  
Thailand

Cyber Internet Services, Pakistan

Development Bank of the Philippines Data Center

Pacific Mobile Communications, Papua New Guinea

Sirius Broadband, Bangladesh

Uecomm, Australia

APJII

CNNIC

TWNIC

VNNIC

Planet Online Laos

Lao National Internet Committee (LANIC)

Vietnam Post and Telecommunications Corporations  
(VNPT)

Internet Service Providers Association of India (ISPAI)



[www.apnic.net](http://www.apnic.net)